

平成 29 年度

香川大学教育学部と香川県教育委員会との  
連携に関する実績報告書

香川大学教育学部／香川県教育委員会

## 学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築のために

香川大学教育学部と香川県教育委員会は、平成 14 年（2002 年）5 月 30 日に連携協力に関する覚書を交わしました。覚書を締結してから 16 年が過ぎ、この連携協力に関する実績を記録する報告書も平成 29 年度で第 16 号となりました。

香川大学教育学部と香川県教育委員会の連携事業は、「教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る」（覚書、第 1 条）ことを目的として、毎年広範かつ活発に行われています。平成 29 年度については、教員養成に関する取組みが 4 件、教員研修に関する取組みが 6 件、調査・研究に関する取組みが 1 件、事業に関する取組みが 14 件、その他の取組みが 1 件など、合計で 26 件もの多岐にわたる連携事業が実施されました。毎年 2 月に開催される連携協議会は、会議と情報交換会をセットにして相互の交流が図られております。

教育学部は、平成 26 年の「ミッションの再定義」において地域密着型の大学という類型に分類され、その類型にしたがって、地域の教員養成機能の中核的役割を担うとともに、教育課題の解決を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを、学部のミッションとして明確化しました。そして、平成 28 年 8 月に出された「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」の最終報告を受けて、これからは実践的な教員養成機能に加えて、現職教員の教育・研修機能をより一層強化していきます。

さて、平成 29 年度における香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力について語るとき、連携協議会のもとに新しく設置された専門委員会（教員研修システム共同開発委員会）の役割について触れなければなりません。今後は、この「教員研修システム共同開発委員会」において、教職大学院を中心とした教員研修システムの開発、現職教員研修の共同企画・実施について検討、具体化していければと考えています。

ここ数年で、香川大学教育学部と香川県教育委員会の連携協力はより広範で緊密なものになり、新しい段階（ステージ）へと一歩進んだように思います。今後は、教員の養成・採用・研修を通じて、学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築のための体制づくりを連携して模索していくこととなります。香川大学教育学部は、これからも、人材育成や地域課題を解決する取り組みを通して地域に貢献する学部として、香川県教育委員会との連携協力の関係を進化させ、両者の協働的な取り組みを一層強力に推進していきたいと考えています。

平成 30 年 3 月

香川大学教育学部長

毛利 猛

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

本県では、平成 28 年度に第 3 期「香川県教育基本計画」を策定し、「夢に向かってチャレンジする人づくり」の基本理念のもと、学校、家庭、地域社会が連携して子どもたちを育てることができるよう、学力の育成やこころの育成、教員の指導力向上等を柱とした教育施策を積極的に展開しております。

このような中、平成 14 年度からスタートした香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組は 16 年目を迎え、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸問題へ対応するため、多方面で連携協力しているところです。

本年度の連携事業を振り返りますと、県教育委員会各課主催の現職教員研修や各種事業、81 講座に及ぶ教員免許状更新講習等における講師・助言者として専門的な視点からのご指導・ご助言をいただきました。また、学力向上施策を中心としたモデル校事業や道徳の教科化に向けた取組において、研究指定校へ直接足を運んでご指導をいただいたり、県教育センター運営協議会においてご意見を頂戴したりと、様々な場面でご支援、ご協力をいただきました。さらに、将来教育関係の分野に進むことを希望する香川大学の学生に、学生ボランティアとして県内の各学校や教育支援センター、放課後子供教室等で子供たちに関わっていただき、教育現場から多くの感謝の声が寄せられております。

特に、平成 27 年度の設置準備委員会に端を発する「教育創造コース」が開講の運びとなったことも、本年度の大きな成果の一つです。4 月には開講式が開かれ、40 名がその第 1 期生として入学しました。1 年間を通し、教育学部の教授による出前講座を実施していただいたり、附属坂出小学校の教育活動に携わらせていただいたりしました。そのような経験を通し、生徒は教職への夢を膨らませ、理想の教師像を形づくっていきました。将来の香川の教育を担う人材が香川で育っていく頼もしさを感じたものです。

本年度、県教育委員会では「香川県教員等人材育成方針」を策定し、目指すべき香川の教員像や資質の向上に関する指標を示しました。増加する若年教員とベテラン教員とが、それぞれの立場からチーム学校に貢献できる資質の向上を図っていく必要性が高まっています。教員等が教職経験に応じた知識・技能を習得し、実践的指導力を高められるよう、香川大学教育学部との連携協力を一層密にしながら、学び続ける教員の育成に向けて努力を重ねてまいりたいと考えております。

平成 30 年 3 月

香川県教育委員会教育長

工 代 祐 司

# 目 次

はじめに

学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築のために

香川大学教育学部長 毛利 猛

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会教育長 工代 祐司

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取り組み

## 【概要編】

平成 29 年度の香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力  
に関する取り組み一覧 ..... 6

## 【資料編】

- [資料 1] 平成 29 年度公立学校インターンシップ実施要領.....13
- [資料 2] 公立学校教員等の活用.....15
- [資料 3] 香川大学教育学部の専任教員として.....17
- [資料 4] 大学教員の公立学校現場での研修制度.....21
- [資料 5] 平成 29 年度香川県教育委員会免許法認定講習.....22  
(特別支援学校教諭)
- [資料 6] 免許法公開認定講座.....23
- [資料 7] 教員免許状更新講習.....24

[資料 8-1]	思考力等の育成モデル校事業	29
[資料 8-2]	学習習慣形成モデル校事業	30
[資料 8-3]	学習意欲向上モデル校事業	31
[資料 8-4]	アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業	32
[資料 8-5]	幼児教育支援員派遣事業	33
[資料 8-6]	豊かな心を育てる事業	35
[資料 9]	キャリア教育充実事業（プロを講師とした授業）	36
[資料 10]	高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）	37
[資料 11]	学生ボランティア派遣事業	38
[資料 12]	学生ボランティア派遣事業（放課後子ども教室）	39
[資料 13]	豊かな人権感覚を育てる事業（学生ボランティア募集）	40
[資料 14]	第 16 回「未来からの留学生」を終えて	41
[資料 15]	平成 29 年度特別支援教育コーディネーター協議会	42
[資料 16]	香川 CST 事業	43
[資料 17]	平成 29 年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業	45
[資料 18]	坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業	46

## 【覚書・要項】

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書	58
香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項	59

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力  
に関する取り組み

概 要 編

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

### I 協議会関係

項 目	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画等	資 料
①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 連携協議会（H30.2.9）</li> <li>○ 幹事会（H30.1.30）</li> </ul> <p>(1) 平成 29 年度連携協議会について                      (2) 平成 30 年度連携事業計画について                          ・継続連携事業について                          ・その他                      (3) その他</p>	連携協議会開催 （H31.2 予定）  ・幹事会（1 回程度）	
②報告書の作成 〔担当：教育学部〕	○ 平成 29 年度実績報告書作成	・平成 30 年度実績報告書作成	

## II 連携関係

### 1 教員養成に関するもの

項 目	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画等	資 料
①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕	<p>正規</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附特支 公立 1 校（参観）6 月（1 日間）</li> </ul> <p>特別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附高小 公立小 6 校（実習）5・6 月（10 日間）</li> <li>・附坂小 公立小 3 校（実習） 5 月（10 日間）</li> <li>・附高中 公立中 1 校（実習） 5 月（5 日間） 公立高 1 校（実習） 5 月（5 日間）</li> <li>・附坂中 公立中 1 校（実習） 5 月（5 日間） 公立高 1 校（実習） 5 月（10 日間）</li> </ul> <p>※「正規」は、教育実習期間中に行うもの。 「特別」は、希望により行うもの。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	
②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員採用内定者が公立学校で研修（予定）</li> <li>・参加者予定：43 名（学生 40 名、院 3 名）</li> <li>・実施期間 平成 30 年 2 月～3 月（5 日程度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	資料 1
③公立学校教員等の活用 （県教育センター） （義務教育課） 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現職教員等が附属教職支援開発センター客員教授として講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>・退職校長（岡静子）、主任指導主事（東条直樹、大山修）</li> <li>・年間 2 期、1 人 20～25 時間程度の講義</li> </ul> </li> <li>○ 現職教員等が教員養成実地指導講師として講義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	資料 2
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現職教員等 3 名を大学教員（准教授）として採用（H15.4.1～） 田崎伸一郎、佐藤盛子、十河 妹</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	資料 3
④大学教員の公立学校現場での研修制度（義務教育課） 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学教員が公立学校現場で研修</li> <li>・研修者（2 名） 吉川 暢子 准教授 直島町立直島小学校 宮本 賢作 准教授 三木町立三木中学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	資料 4

## 2 教員研修に関するもの

項 目	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画等	資 料
①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) [担当：県教委]	○ 内地留学の実施 (H19.4～8名、H20.4～7名、H21.4～8名 H22.4～7名、H23.4～6名、H24.4～5名、H25.4～5名 H26.4～5名、H27.5名、H28.11名、H29.10名) ・教職大学院学校力開発コース 3名 ・教職大学院授業力開発コース 3名 ・教職大学院特別支援 Co コース 3名 ・学校臨床心理専攻 1名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの	・継続実施	
②教員免許状取得のための 研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習(8月)への大学教員の 派遣等	・継続実施	資料5
(免許法認定公開講座) [担当：教育学部]	○小学校の現職教員が中学校教諭免許状(外国語 (英語))を取得するための免許法認定講習を 実施(13講座、14単位)	・継続実施	資料6
③指導改善研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○ 実施なし	・未定	
④教職員研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○ 初任者研修等、各種研修会の講師・助言者と して大学教員を派遣	・継続実施	
⑤特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 内地留学の実施 (H25.4～ 2名、H26.4～ 2名、 H27.4～ 2名、H28.4～ 2名 H29.4～ 2名)	・継続実施	
⑥教員免許状更新講習 [担当：教育学部]	○ 教員免許状更新講習として必修講習 6、選択 必修講習 20, 選択講習 55 の計 81 講座を開設	・教員免許状更新講 習として必修講 習 7、選択必修講 習 21, 選択講習 72 の計 100 講座 を開設する予定	資料7

### 3 調査・研究に関するもの

項 目	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画等	資 料
①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) 〔担当：県教委〕	○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣 ・ 思考力等の育成モデル校事業 ・ 学習習慣形成モデル校事業 ・ 学習意欲向上モデル校事業 ・ アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業 ・ 幼児教育支援員派遣事業 ・ 豊かな心を育てる事業	・ 継続実施	資料 8 -1,2,3, 4,5,6

### 4 事業に関するもの

項 目	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画等	資 料
①キャリア教育充実事業 (プロを講師とした授業) (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 大学教員を講師として派遣 高松北高、丸亀高、志度高、高松桜井高	・ 継続実施	資料 9
②高大連携 (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 体験授業：1 講座で 11 校 39 人が受講	・ 継続実施	資料 10
③学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) (人権・同和教育課) 〔担当：県教委〕	○ 学生ボランティア派遣事業（登録者 31 名） ・ 学習指導の補助、学校生活への適応補助など公立小・中学校や教育支援センター（適応指導教室）に 31 名を派遣（H29. 12. 1 現在）	・ 継続実施	資料 11
	○ 「放課後子ども教室」支援ボランティア等の募集 ・ 支援ボランティアとして 6 名登録 (H29. 12. 1 現在)	・ 継続実施	資料 12
	○ 豊かな人権感覚を育てる事業 ・ 支援ボランティアとして 14 名参加		資料 13
④家庭教育支援推進事業 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 家庭教育に関する学習講座等に大学教員を派遣	・ 継続実施	
⑤未来からの留学生 〔担当：教育学部〕	○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催（県教委後援） ・ 約 1000 名超が参加	・ 継続実施	資料 14

項 目	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画等	資 料
⑥ 県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力	・ 継続実施	
⑦ 各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○ 各種事業委員会の委員等として相互協力	・ 継続実施	
⑧ 生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開 (9 名受講)	・ 継続実施	
⑨ 特別支援教育体制整備 の推進事業 ・ 専門家チーム ・ 巡回相談 ・ 特別支援教育コーディネーター協議会 ・ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会 (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 体制整備の推進に関する指導・助言 ○ 学校(園)を訪問し、発達障害のある児童生徒への指導内容・方法、学校(園)の支援体制について指導助言 ○ 特別支援教育コーディネーター協議会での講義 ○ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会での講義	・ 継続実施	資料 15
⑩ 香川 CST 事業 〔担当：教育学部〕	○ 本協議会に設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が実施 ○ CST 養成プログラムの実施 ○ CST 養成プログラムの修了認定 ○ CST 活動の推進	・ 継続実施	資料 16
⑪ 「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」 〔担当：教育学部〕	○ 発達障害等に関する専門的実践的知識の習得のための研修プログラムの開発、早期支援に関わる幼稚園・保育園と小学校の連携した研修プログラムの開発等に義務教育課、特別支援教育課が参加・連携協力。	・ 継続実施	

<p>⑫平成 29 年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業 〔担当：教育学部〕</p>	<p>○ プログラム名：「道徳科全面実施を支援する研修プログラムの開発～『かがわ道徳ラボ』を核として～」 ・「かがわ道徳ラボ公開講座①、②」・「かがわ道徳ラボ研修会Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」・「かがわ道徳ラボ指導者研修会」・道徳ラボ Q&amp;A ブックの作成等による研修プログラムの開発等に義務教育課，香川県教育センターが連携協力</p>	<p>・他県からも多数の参加があり、未定だが、四国道徳ラボへの発展も検討</p>	<p>資料 17</p>
<p>⑬坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業（高校教育課） 〔担当：県教委〕</p>	<p>○ 出前授業の実施（8回） ○ 附属坂出小学校における教育活動への参加（7回） ○ 教育内容に関する検討</p>	<p>・出前授業の実施 ・附属幼稚園及び附属坂出中学校における教育活動への参加 ・教育内容に関する検討</p>	<p>資料 18</p>
<p>⑭非認知スキル向上事業（生涯学習・文化財課） 〔担当：県教委〕</p>	<p>○ 研究指定幼稚園への指導派遣（体幹講座）高松市立檀紙幼稚園（4回）</p>	<p>・事業は継続実施であるが幼稚園への指導派遣は未定</p>	

## 5 その他

項 目	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画等	資 料
<p>①附属学校への教員派遣（義務教育課） 〔担当：県教委〕</p>	<p>○ 平成 29 年度新規派遣 ※（ ）は合計数 ・附属高松小 4（29） ・附属高松中 1（20） ・附属坂出小 2（20） ・附属坂出中 3（22） ・附属特別支援学校 3（32） ・附属幼稚園 2（9） 計 15 名（132 名）</p>	<p>・継続実施</p>	

# 資 料 編

## 平成 29 年度公立学校インターンシップ実施要領

香川大学教育学部

## 1. 目的

平成 30 年 3 月卒業見込又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（大学院生を含む）が、4 月以降の教員としての生活に先立ち、教員の職務の実態に触れることによって、児童・生徒への理解や教員としての職務の理解を深め、教職へ就くことへの意識向上を図る。

## 2. 対象者

平成 30 年 3 月卒業又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（ただし教職大学院生及び講師経験のある院生は対象外にすることができる。）

## 3. 参加人数

公立小学校	32名
公立中学校	11名
公立特別支援学校	0名

## 4. 実施時期・期間

平成 30 年 2 月～平成 30 年 3 月初旬の間で 1 週間（5 日程度）

## 5. 研修学生（大学院生）、研修校及び研修予定期間

研修学生	研修校	研修予定期間	備考
教育学部 4 年	高松市立木太北部小学校	2 月 19 日～2 月 23 日	1 名
教育学部 4 年	善通寺市立東中学校	2 月 5 日～2 月 9 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立栗林小学校	2 月 5 日～2 月 9 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立牟礼北小学校	2 月 19 日～2 月 23 日	1 名
教育学部 4 年	観音寺市立観音寺小学校	2 月 26 日～3 月 2 日	2 名
教育学部 4 年	多度津町立豊原小学校	2 月 5 日～2 月 9 日	2 名
教育学部 4 年	坂出市立坂出中学校	2 月 5 日～2 月 9 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立香南小学校	3 月 5 日～3 月 9 日	1 名
教育学部 4 年	坂出市立坂出小学校	2 月 19 日～2 月 23 日	1 名
教育学部 4 年	三豊市立財田小学校	2 月 5 日～2 月 9 日	1 名
教育学部 4 年	観音寺市立中部中学校	2 月 26 日～3 月 2 日	2 名
教育学部 4 年	丸亀市立東中学校	2 月 13 日～2 月 19 日	1 名
教育学部 4 年	さぬき市立さぬき南中学校	2 月 26 日～3 月 2 日	1 名
教育学部 4 年	観音寺市立大野原中学校	2 月 13 日～2 月 19 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立弦打小学校	2 月 5 日～2 月 9 日	2 名
教育学部 4 年	高松市立高松第一中学校	2 月 26 日～3 月 2 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立高松第一小学校	2 月 26 日～3 月 2 日	1 名
教育学部 4 年	宇多津町立宇多津小学校	2 月 5 日～2 月 9 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立太田小学校	2 月 19 日～2 月 23 日	2 名

研修学生	研修校	研修予定期間	備考
教育学部4年	高松市立屋島小学校	2月19日～2月23日	1名
教育学部4年	高松市立新番丁小学校	2月19日～2月23日	3名
教育学部4年	高松市立亀阜小学校	2月5日～2月9日	1名
教育学部4年	綾川町立綾南中学校	2月5日～2月9日	1名
教育学部4年	三豊市観音寺市学校組合立 三豊中学校	2月19日～2月23日	1名
教育学部4年	東かがわ市立引田小学校	2月19日～2月23日	1名
教育学部4年	観音寺市立大野原小学校	2月19日～2月23日	1名
教育学部4年	琴平町立琴平小学校	2月5日～2月9日	1名
教育学部4年/院2年	坂出市立東部小学校	2月5日～2月9日	2名
教育学部4年	丸亀市立郡家小学校	2月19日～2月23日	1名
教育学部4年	綾川町立滝宮小学校	2月19日～2月23日	1名
教育学部4年	高松市立仏生山小学校	2月5日～2月9日	1名
教育学部4年	高松市立紫雲中学校	2月5日～2月9日	1名
教育学部4年	丸亀市立岡田小学校	2月18日～2月23日	1名
教育学研究科2年	高松市立牟礼南小学校	2月26日～3月2日	1名
教育学研究科2年	丸亀市立城辰小学校	2月26日～3月2日	1名

## 6. 研修内容

- 児童・生徒の指導
- 職員室での仕事
- 学校行事（朝礼等）への参加  
※土日の学校行事・振替日については、研修校と学生が協議の上、決定する。
- 部活の見学（直接指導はしない）
- その他（研修校の判断による）

## 7. 事前・事後指導

### (1) 事前指導

- 教育学部教員による講話等
- 研修校での直前指導
  - ・「本研修で学びたいこと」についてまとめ（A4判1枚程度）、教育学部学務係を通じて研修校、香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出

### (2) 事後指導

- 研修の感想等についてレポートにまとめ、教育学部学務係を通じて研修校、香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出（A4判1枚程度）

## 8. その他

研修の内容・方法等の詳細については、香川県教育委員会及び研修校と協議の上決定する。

## 平成29年度 第1期教育実践集中講座

## 「教師になる」とはどういうことか？

## ～「先生」と呼ばれる日への第一歩～

- 【趣旨】 ・教員採用試験にチャレンジするための準備講座である。  
 ・教育法規等の各テーマについて、具体的な事例をもとにケーススタディを行う。

- 【担当】客員教授 大山 修（香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事）  
 客員教授 東条 直樹（香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事）  
 客員教授 岡 静子（高松市立屋島小学校前校長）

## 【日程】

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
5月11日(木) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習>(岡) 【教育法規・教育施策】 「ノウハウ集団面接」	「教職の総合的研究」の講義として行う。 (毛利先生)
5月13日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習>(大山・東条) 【教育法規】Ⅰ「教育目標と教師に求められる力」 「教員になる①」	「教育法規入門」の集中講義として行う。 (佐藤(盛)先生・十河先生)
5月15日(月) (10:30~12:00)	教授法 演習室	<講義・演習>(大山) 【教職理解】 「教職の魅力 教職とは」	「教職概論(ロ)」の講義として行う。 (岡田(知)先生・植田先生)
5月15日(月) (16:20~17:50)	621 講義室	<講義・演習>(岡) 【学級経営】「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(イ)」の講義として行う。(毛利先生)
5月20日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習>(大山・東条) 【教育法規】Ⅱ「教育課程と学校評価」 「教員になる②」	「教育法規入門」の集中講義として行う。 (佐藤(盛)先生・十河先生)
5月27日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習>(大山・東条) 【教育法規】Ⅲ「生きる力と学力」 「教員になる③」	
6月12日(月) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(大山) 【生徒指導】ケーススタディ 「生徒理解を基盤とした生徒指導」	「生徒指導論B」の講義として行う。 (毛利先生)
7月10日(月) (14:40~16:10)	611 講義室	<講義・演習>(大山) 【道徳教育】ケーススタディ 「子どもの心を耕す道徳の授業」	「道徳教育論(イ)」の講義として行う。 (櫻井先生)
7月10日(月) (16:20~17:50)	621 講義室	<講義・演習>(岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(イ)」の講義として行う。(毛利先生)
7月20日(木) (16:20~17:50)	621 講義室	<講義・演習>(岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(イ)」の講義として行う。(毛利先生)
7月24日(月) (16:20~17:50)	621 講義室	<講義・演習>(岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(イ)」の講義として行う。(毛利先生)
7月26日(水) (13:00~15:00)	611 講義室	<講義・演習>(東条) 【子ども理解】「附属学校参観の心構え」	「教育実践プレ演習」の講義として行う。 (松下先生、七條先生)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務局 TEL:087-832-1683

# プロの教師とは何か？

## ～教師になるあなたへのエール～

【趣旨】・学校現場における実際の指導(教科、道徳、総合的な学習の時間)の在り方について考える。

・未来への夢や教師への憧れが膨らむような事例を通して、教師のやりがいを探る。

【担当】客員教授 大山 修(香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事)  
客員教授 東条 直樹(香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事)  
客員教授 岡 静子(高松市立屋島小学校前校長)

【日程】

日	場所	主な内容	備考
10月20日(金) (8:50~12:00)	621 講義室	<講義・演習>(大山・岡) 【教育課題の探究】 「いじめと体罰」(大山) 「教員としての倫理観」(岡)	「教職実践演習」の講義として行う。 (山岸先生)
11月9日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(東条) 【生徒指導】「生徒指導ケーススタディ」	「生徒指導論A」の講義として行う。(毛利先生)
11月13日(月) (8:50~10:20)	422 講義室	<講義・演習>(大山) 【教職理解】 「学校について理解しよう④(中学校)」	「教職概論(イ)」の講義として行う。 (松下先生)
11月13日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習>(岡) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(ロ)」の講義として行う。 (毛利先生)
11月15日(水) (13:00~16:30)	415 講義室	<講義・演習>(東条・岡) 【教育実習事後指導】 「教育実習を振り返って」シポジウム・助言	「教育実践演習A・B(教育実習事後指導)」として行う。(山岸先生)
11月20日(月) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習>(岡) 【教職理解】 「教職を知る②心に残る教師と伸びる教師」	「教職概論(イ)」の講義として行う。 (松下先生)
11月24日(金) (8:50~12:00)	621 講義室	<講義・演習>(大山・岡) 【校種別による選択実務研修】 「はばたけ若き力を生かして ～4月からの心がまえ～」 中学校(大山)・小学校(岡)	「教職実践演習」の講義として行う。 (山岸先生)
12月7日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(岡) 【生徒指導】ケーススタディ 「小学校における生徒指導上の実際」	「生徒指導論A」の講義として行う。 (毛利先生)
12月11日(月) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習>(東条) 【教職理解】「授業について考える② よい授業とは・よい保育とは」	「教職概論(イ)」の講義として行う。 (松下先生)
12月13日(水) (10:30~12:00)	422 講義室	<講義・演習>(岡) 【人権教育】「学校教育における人権教育 小学校での取組事例に学ぶ」	「人権教育」の講義として行う。 (櫻井先生)
1月22日(月) (13:00~14:30)	432 講義室	<講義・演習>(大山) 【道徳教育】ケーススタディ 「子どもの心を耕す道徳の授業」	「道徳教育論(ロ)」の講義として行う。 (櫻井先生)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務室 TEL:087-832-1683

## 香川大学教育学部の専任教員として

～15年目の取組と今後の展望～

田崎伸一郎・佐藤盛子・十河妹

## 1 15年目の活動内容 &lt;資料3-2参照&gt;

## 2 今年度の取り組みの重点

## (1) 学校現場に即した授業の充実

昨年度から、交流人事教員3名の内2名が教育学部の学校教育講座(教職実践)の所属に、1名が高度教職実践専攻(教職大学院)の所属となった。交流人事教員が主担当となって実施している学部の科目には、「授業実践論」「生活科授業研究」「教育法規入門」「教職実践演習」「教職の総合的研究」などがある。また、教職大学院では「指導法分析と学習支援」「教材開発の理論と実践」「授業研究の実際」「道徳授業の実践研究」などを担当しており、それぞれの授業において、学校現場での実践をふまえた授業を行っている。

学部科目の「授業実践論」では、受講者(4年生38名・3年生2名)に対して、教員として求められる基本的な授業づくり(課題の設定、発問、板書の仕方等)をおさえたいうで、学習指導案を作成し、模擬授業や授業後の討議を行うなど、より実践的な授業研究の在り方について講義している。また、「教育法規入門」は、ほとんどの4年生が受講しており、基本的な教育法規(教基法、学校法、地公法、教特法等)及び答申・通知などについて、事例をもとにしながら解説を加え、法令遵守精神の高揚を図っている。

教職大学院科目の「道徳授業の実践研究」では、話し合いや書く活動など、道徳科に生かす多様な指導方法について、具体的な実践例を取り上げながら、その長所や配慮事項を確認するとともに、道徳科におけるより効果的な表現活動の在り方について講義している。また、「授業力開発実習」では、担当教員として現職教員学生の置籍校での授業実践に関わり、教材研究の在り方や具体的な授業づくり、授業実践後の振り返りなどをマンツーマンで行っている。さらに、「教職実践研究」では、担当学生の研究テーマに即した先行研究や実践事例を紹介したり、学生が実習を通して学びを深めたことを価値づけたり、研究について疑問に感じたことを解決したりするなどの指導・助言を行っている。

## (2) 教育委員会・各学校との連携

今年度も、従来通り、人的ネットワークを生かして学内外の橋渡し役を務めており、地域ブロック研究会での講師、研究大会に向けての指導助言者として、様々な教育活動推進に尽力してきた。

また、各学校からは校外学習のサポート、学習支援の依頼などについて、正規の手続きを踏まえて実施できるように連絡・調整を行っている。学生に対しては、学生支援ボランティアや学生支援員としての児童生徒への関わり方などの相談や、卒業研究に係る授業参観、アンケート調査の依頼、研究会への参加など、様々な体験ができるように配慮している。

## (3) 学生の教員採用選考試験突破へのサポート

交流人事教員が行う教員採用選考試験に係る支援は、授業として行っているものと、授業外でアドバイザーとして行っているものとに分けられる。前者は、「教育法規入門」や「教職の総合的研究」がそれにあたる。「教職の総合的研究」の授業では、教員採用選考試験に向けて、教育の今日的課題について意識を高めたり、集団討論や模擬授業などの演習を実施したりしている。後者は、「就職ガイダンス・セミナー」(不定期、主に水曜日の午後実施)「教職自主サークル」(ほぼ毎週月曜6時間目)「願書作成等の個人的課題」(教員の空き時間)などを通して支援している。中でも特徴的なものが、「教職自主サークル」と呼ばれる教員採用に向けた学生の自主的な活動である。毎週月曜日18時から19時30分までの1時間半行われており、3名の交流人事教員は毎回オブザーバーとして指導・助言している。この活動には教員を志望する学生が多く参加しており、学生同士で研鑽する場と

「授業実践論」の授業風景(授業後の討議)

教職自主サークル  
「先輩教員からの模擬授業指導」

なっている。活動内容は、集団討論や模擬授業、場面指導などの演習をはじめ、各自治体の教員採用選考試験に関する情報・意見交換を行っている。交流人事教員も講師を務めるなどして関わり、教員採用選考試験にとらわれることなく、教育課題をどうとらえるか、問題にどう対応するかなど、教員としての心構えなどの助言も行っている。さらに、今年度も8月には教員採用選考試験二次対策として「先輩教員からの模擬授業指導」を実施した。また、2月には教員としての生活について教職に就いて2～3年程度の経験をもつ卒業生から教職の魅力や困難さ等の話を聞く「卒業生と在校生との交流会」を実施する予定である。このように、「教職自主サークル」の活動は卒業生をも巻き込む広がりを見せている。交流人事教員としては、「教職自主サークル」を学部生だけのものとせず、卒業した学生が母校に戻ってきて、教育について語り合ったり、親睦を深め合ったりできるような同窓会的な側面をもつ組織にしたいと考えている。

ここで取り上げたような「教職自主サークル」での学生との交流や「教育法規入門」等の授業によるつながりにより、願書の添削や小論文指導、模擬授業の指導の依頼、悩みごとを抱える学生の相談等、交流人事教員の研究室を訪れる学生は多い。教育実習前・中には、指導方法や子どもへの接し方等について相談を受けたり、就職支援員の担当者を中心に、就職支援委員会の教員らとともに学生一人一人の就職支援を細やかにしたりしている。

#### (4) 学外との連携

10月15日(日)、教育学部フェスティバル in 香大「未来からの留学生」に「LEGOで遊ぼう!」の講座を開設して、学生と子どもたちがふれあった。教育実習などでは体験がたい内容であり、教材教具を作成するアイデアや工夫、子どもに遊び方を伝えるための語りかけなどを学ぶよい機会となった。また、「音読教室」では、各領域から参加した30名以上の学生が企画運営に携わり、子どもたちへの関わり方や音読の指導について学ぶ場となった。



#### (5) 研究活動の充実

「教職支援開発センタープロジェクト 実践講座」として平成25年度より、卒業前対策講座として、新規採用者、講師採用者に対して、教員になるための心構えを集中講義している。また、一昨年度刊行した『教員としてはじめの第一歩』に引き続き、今年度は、他県の交流人事教員にも参加していただき、若手教員を対象として、授業力と学級経営力の向上のための手引書『教員としてのホップ・ステップ ～磨こう 授業力・学級経営力』を刊行した。

個人的な研究では、昨年に引き続き「挑戦的萌芽研究」を申請した。また、12月には日本教育大学協会四国地区研究大会「高知集会」と全国教育系大学交流人事教員交流研究集会に参加し、「教職大学院開設に伴い変化する交流人事教員の取組」と題した研究発表を行った。

### 3 今後の課題

平成28年度から現体制(学部担当2名、教職大学院1名)での取組が始まり、交流人事教員の大学との関わり方は大きく見直されることになった。これまで3名で行ってきた学部生への指導や相談対応を教職大学院担当を除く2名で対応しなければならなくなったことが増えたからである。その対策として、教職大学院担当教員の副担当を教育学研究室にしてもらったり、教職支援専門委員に任命してもらったりして就職を控えた4年生と関わる機会を少しでも多くしてもらっている。また、同時に授業科目の見直しについても来年度の後期からスタートさせるために、次のように検討中である。授業として位置付けられている「教育法規入門」「教職の総合的研究」と授業外の「教職ガイダンス・セミナー」「教職自主サークル」のスリム化を図り、交流人事教員はもとより、教育学部の教員も取り込む授業科目の再編と学生の自主的な活動の精選を行い、無理なくしかも効率的な教員採用選考試験における支援の在り方を模索しているところである。さらに、毎年度末には、「交流人事教員連絡会」を開催していただき、香川大学における交流人事教員のよりよい在り方について協議を重ねている。そういう機会も大切にしながら、従前までの体制を見直し効率化を図りつつ、交流人事教員が緊密に連携をとりながらより幅広い教職支援体制の構築を目指していきたい。

教員の資質能力の総合的な向上が求められている今、交流人事教員それぞれの校種や経験から、学生に教員という仕事のやりがいやすばらしさについて伝えるとともに、課題が山積する学校現場でたくましく歩んでいくことができるように応援していきたいと考えている。そのために、学生の自主的な活動をサポートし、より教育現場に即した内容を今後も提供していくとともに、大学教育の改革が進む中で、交流人事教員の重責を感じながら、現状に甘んじることなく、実務家教員としての資質向上に励んでいく所存である。

## 1 学内における活動

## (1) 委員会等

- <田崎> 学生支援専門委員会、未来からの留学生アドバイザー、教職大学院専攻委員  
 <佐藤> 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー、広報委員会  
 <十河> 学生支援専門委員会、教育実習実施専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー

## (2) 授業等

- <田崎> 【高等学校】坂出高等学校教育創造コースでの講義  
 【学部】学校教育課程論A、教職概論イ、教育法規入門、教職の総合的研究、授業実践論、教育実践演習、就職セミナー、教職自主ゼミ、香川県教員採用予定者公立学校インターンシップガイダンス  
 【教職大学院】指導法分析と学習支援、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ、授業力開発実習Ⅰ・Ⅱ、学校臨床基礎実習Ⅰ・Ⅱ、探究実習、教材開発の理論と実践、授業研究の実際、道徳授業の実践研究、教職実践研究交流会、教職実践研究フォーラム、フォローアッププログラム
- <佐藤> 大学入門ゼミ、教育学演習ⅠA、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、初等授業研究、学校教育課程論B、教職概論イ、教育法規入門、教職の総合的研究、教育実践演習、教職実践演習、学校教育実践研究、就職セミナー、教職自主ゼミ、卒論指導・主査、卒論副査
- <十河> 大学入門ゼミ、教育学演習ⅠB、生活科授業研究、学校教育課程論A・B、教職概論イ・ロ、授業実践論、教育法規入門、教職の総合的研究、教育実践演習、教育実践事例研究、教職実践演習、特別教育実習A・B、就職セミナー、教職自主ゼミ、卒論副査

## (3) その他

- <田崎> 未来からの留学生「音読教室」講座担当、卒業前対策講座担当  
 <佐藤> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生「LEGOで遊ぼう！」講座担当、松楠会学内理事、卒業前対策講座担当  
 <十河> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生「音読教室」講座担当、卒業前対策講座担当

## 2 学外における活動

## (1) 研究業績

- <田崎>  
 (編著者)『教員としてのホップ・ステップ ～磨こう 授業力・学級経営力』(美巧社、2017.04)  
 (学会発表等)「教職大学院開設に伴い変化する交流人事教員の取組」  
 (平成29年度日本教育大学協会四国地区研究集会「高知集会」2017.12)
- <佐藤>  
 (編著者)『教員としてのホップ・ステップ ～磨こう 授業力・学級経営力』(美巧社、2017.04)  
 (学会発表等)「教職大学院開設に伴い変化する交流人事教員の取組」  
 (平成29年度 交流人事教員交流研究集会 2017.12)

## (2) 社会的活動

- <田崎>  
 (講演等)香川県小学校教育研究会国語部会研究発表会授業分科会指導・助言(2017.10)、香川県小学校教育研究会国語部会研究発表会事前研修会(2017.09)、香川県教職員連盟講師部会研修会講師(2017.05、07、08)、坂出・綾歌国語同好会講師(2017.06)、高松市立弦打小学校校内

研修指導・助言(2017.06)、高松市立花園小学校校内研修指導・助言(2017.10)、高松市立仏生山小学校校内研修指導・助言(2017.11)

(その他) 大学入試センター試験 (監督)、全国小・中学校作文コンクール (香川県審査)

<佐藤>

(委員等) 香川県がん教育推進委員

(講演等) 香川県小学校教育研究会・道徳部会夏季研修会講師(2017.07)、高松市総合教育センター中堅教諭等資質向上研修会・スキルアップ (道徳教育) 研修会講師(2017.07)、初任者研修(2018.01)、香川県がん教育推進委員会指導・助言(2018.01)、高松市立大野小学校校内研修指導・助言(2017.07)、香川県教職員連盟講師部会研修会講師、香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会

(その他) 大学入試センター試験 (監督)、日本道徳教育学会四国支部学習会、「心のメッセージコンクール」 (審査)

<十河>

(講演等) 香川県教職員連盟講師部会研修会講師(2017.07)、香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会(2017.09)、さぬき市立さぬき南中学校校内研修指導・助言 (2017.8)

(その他) 大学入試センター試験 (監督)

## 大学教員の公立学校現場での研修制度

学校教員の実践的・臨床的な資質向上を図るためには、教員養成を担う教育学部がその授業の内容を学校現場と結びつけ、学校の「教育実践」という視点から再構成することが必要です。このためには、大学・学部教員が従来以上に学校現場との関わりを深める必要があります。

こうしたことから、香川大学教育学部では、平成 15 年より香川県教育委員会との連携のもと、大学・学部教員が学校現場で自己研鑽する制度を設けています。

平成 29 年度は、美術教育の吉川暢子教員が直島町立直島小学校で、保健体育の宮本賢作教員が三木町立三木中学校で、それぞれ研修に取り組みました。

### 研修を行った大学教員

准教授	吉川 暢子（美術）
研修校	直島町立直島小学校
研修日	平成 29 年 12 月 12 日（火） 平成 30 年 1 月 16 日（火）

准教授	宮本 賢作（保健体育）
研修校	三木町立三木中学校
研修日	平成 30 年 1 月 15 日（月） 1 月 22 日（月） 1 月 29 日（月）予備日

## 平成29年度香川県教育委員会免許法認定講習(特別支援学校教諭)

## 1 目的

特別支援学校教員及び小・中学校特別支援学級担当教員等を対象として、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める免許法認定講習を開設し、特別支援学校教諭二種及び一種免許状を取得、または領域の追加をするための所要単位を修得させるとともに、その資質の向上を図る。

## 2 開設科目、受講人員、期間

	開設科目	受講者数	月日
講義 I	聴覚障害児の教育課程及び授業法	91名	8月1日(火)・2日(水) (講義16時間)
講義 II	肢体不自由児の教育総論	97名	8月18日(金)・19日(土) (講義16時間)
講義 III	視覚障害児の心理・生理及び病理	66名	8月21日(月)・22日(火) (講義16時間)
講義 IV	知的障害児の教育総論	92名	8月23日(水)・24日(木) (講義16時間)

## 3 日程 (全講義同一日程)

時間	8:45	9:00	9:10	10:40	11:00	12:30	13:30	15:00	15:20	16:50
第1日	受付	オリエンテーション		講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧
第2日		受付		講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯

## 4 講師 (香川大学)

	期日	科目	講師
講義 III	8/21・22	視覚障害児の心理・生理及び病理	教授 惠羅 修吉
講義 IV	8/23	知的障害児の教育総論	教授 武藏 博文
	8/24		教授 坂井 聡

## 香川大学免許法認定公開講座（中学校教諭二種免許状（英語））

- ・ 文部科学省委託事業（平成29年度小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施事業）として13講座（14単位）を昨年度に引き続き開設した。
- ・ 2年目となる今年度は、香川県内から36名の受講者があり、うち3名が今年度だけで全13講座（14単位）を受講した。また、昨年度からの受講生を合わせると、今年度は19名が免許状取得に必要な14単位を取得した。

## (1) 実施状況

講座名	実施日	単位数	受講者所属都道府県													計	
			香川	高知	愛媛	岡山	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	福井	愛知	福岡	東京	神奈川		
生徒指導論	8/22-23	1	24			1	2				1			1		1	30
学校教育相談学	8/19-20	1	19	1		2	1				1			1	1		26
英語科教育法概説	8/12-13, 12/23-24, 1/6-7	2	20	1		2	2			1	1			1		1	29
英文法概論	10/21-22	1	19			1	1			1	1			1	1		25
英語史概論	8/16, 18	1	10		1					1	1			2		1	16
英語音声学概論	3/9-7/4	1	17			1	4	1			1			1			25
英米文学史概論	7/29-30	1	12				2			1	1			1			17
英語圏児童文学	12/9-10	1	14			1	4			1	1	1	2	3			27
英会話基礎	7/1-2	1	13	1		1	3										18
英作文基礎	7/22-23	1	15				2			1	1			1		1	21
日英のことばと文化	10/7-8	1	15			1	1	1			1			2			21
異文化コミュニケーション論概説	9/30-10/1	1	16	1		1	1	1	1	1	1			3		1	26
異文化理解概説	9/23-24	1	11			1	3			1	1			1	1		20
計			205	4	1	12	26	3	8	12	1	4	18	1	6		301

## (2) 取得単位数別受講者数

取得単位数	受講者所属都道府県													計			
	香川	高知	愛媛	岡山	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	福井	愛知	福岡	東京	神奈川				
14	3																3
13	1							1									2
12											1						1
11	2																2
10	2				1												3
9	2			1			1										4
8	2																2
7	4													1			5
6	4																4
5	2	1		1	1												5
4	3				1							1					5
3	3				2	1					1	1					8
2	3				1												4
1	5		1		1				1	1			1				10
計	36	1	1	2	7	1	1	1	1	2	3	1	1				58

## 香川大学教員免許状更新講習

## 1. 平成29年度 実施状況

## ■ 平成29年6月～10月 開講

	講習数	申込者数	受講者数 (選択講習は延べ数)
必修講習	5	710	558
選択必修講習	17		526
選択講習	51		1,499
廃止講習	7	合計	2,583

開設期間	講習名	講師名	受講人数	合格者
6月4日(日)	【必修】1)教育の最新事情	櫻井 佳樹 橋本 忠行	155	155
6月10日(土)	【選択必修】学校、家庭並びに地域の連携及び協働	山本 珠美	54	54
	【選択】篆刻 ―印章の制作―	小西 憲一	24	24
	【選択】小中高理科で扱う圧力と真空の世界	高橋 尚志	10	10
	【選択】児童期における体育・スポーツ指導	上野 耕平	30	30
6月11日(日)	【選択】小学校教員を対象とした器楽演奏の実践(ピアノ伴奏法とリコーダー演奏)	柳井 修 青山 夕夏	10	10
	【選択必修】学生のモチベーションを高めるカリキュラム開発:タスクベース・プロジェクトベース	ルーツ ピーター	3	3
	【選択必修】Visual Programmingによる学校における情報教育	宮崎 英一	10	10
	【選択】衣生活の管理	小川 育子	16	16
6月17日(土)	【選択】中国における三教(儒仏道)の交渉―他者をどう受容するのか―	池田 恭哉	40	40
	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み―1	加野 芳正 山岸 知幸	39	39
	【選択必修】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育:過去と現在	バテン ポール	15	15
6月18日(日)	【選択】楽しく学んで、楽しく実践、やさしい健康講座	宮武 伸行	60	60
6月18日(日)	【選択】アントレプレナーシップ教育	大北 健一	40	40
6月24日(土)	【選択必修】発達障害と教育相談	武藏 博文	41	41
7月1日(土)	【選択必修】カウンセリング・コミュニケーションについての講義と演習	竹森 元彦	39	39
	【必修】2)教育の最新事情	大久保 智生 毛利 猛	108	108
	【選択】国語科表現教育演習	佐藤 明宏	20	20
	【選択】海洋の生物生産と環境問題	一見 和彦	17	17
7月8日(土)	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント	石川 雄一	17	17
	【選択必修】国際理解教育としての地理教育を考える	平 篤志	19	19
	【選択】プログラミング言語の最新動向	香川 考司	8	8
	【選択】初歩の陶芸	倉石 文雄	16	16
7月9日(日)	【選択】数や図形の見方の発展	佐竹 郁夫	13	13
	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み―2	加野 芳正 山岸 知幸	39	39
7月9日(日)	【選択】社会的投資について考える	朴 恩芝	31	31
	【必修】3)教育の最新事情	松井 剛太 岡田 涼	101	101
8月9日(水)	【選択必修】学教教育について(不登校)	宮前 義和	50	50
	【選択必修】学校カウンセリングの基本	山田 俊介	44	44
	【選択】刑事司法と社会	佐川 友佳子	11	11
	【選択】日本古典文学―歌を読みましょう―	西山 弘子	25	25
	【選択】少子高齢社会における生活経営	時岡 晴美	25	25
	【選択】エクセルを用いた基本統計処理	堀川 洋	25	25
8月10日(木)	【選択必修】わが国の英語教育―歴史を踏まえつつ、その現状認識を一	竹中 龍範	8	8
	【選択】国際社会における法制度と日本	山本 慎一	16	16

開設期間	講習名	講師名	受講人数	合格者
8月10日(木)	【選択】環境に優しいマイクロスケール化学実験ならびに生物化学の基礎	高木 由美子 小森 博文	17	17
	【選択】小児保健	日下 隆 福家 典子	49	49
	【選択】児童の遠見視力低下と生活習慣	大西 美智恵 石井 明	30	30
	【選択】社会と歴史の教育	鈴木 正行	38	38
	【選択】はじめての特別支援教育	小方 朋子 中島 栄美子	103	103
8月17日(木)	【必修】4)教育の最新事情	柳澤 良明 坂井 聡	148	148
8月18日(金)	【選択】体育授業と学級づくりの実際	野崎 武司	36	36
8月19日(土)	【選択】映像から考えるヒトと自然と地域のネットワーク	村山 聡	49	49
8月21日(月)	【選択】資源作物の利用の化学	鈴木 利貞	18	18
	【選択】農薬を通して環境・食を考える	佐藤 正資	30	30
	【選択】職業教育を考える	山田 貴志	17	17
8月22日(火)	【選択必修】授業の情報化に伴う実験データの可視化とプレゼンテーション	黒田 勉	30	30
	【選択】教師の指導が助長する問題行動とその見方	大久保 智生	151	151
	【選択】英語科における異文化理解—教材から言語文化情報を読み取る	竹中 龍範	23	23
8月23日(水)	【選択】災害対応能力訓練システムを用いた学校現場における地震発生時の対応能力養成実習	高橋 亨輔 井面 仁志	20	20
	【選択】地球とその歴史を探る	寺林 優	22	22
	【選択】特別支援教育	西田 智子	79	79
	【選択】疾患を持ちながら生活する子ども達	谷本 公重 鈴木 智子	15	15
	【選択】幼稚園教員の転換点について考える	片岡 元子	30	30
	【選択】科学史をふまえた理科教育論	北林 雅洋	15	15
9月3日(日)	【選択必修】道徳教育	七條 正典	30	30
	【選択】数学—中・高の教材に潜む高等数学	内藤 浩忠	11	11
	【選択】英語到達度テストと段階別評価	水野 康一	21	21
9月10日(日)	【選択必修】道徳教育の充実	植田 和也	12	12
	【選択】衣・食・住の生活文化と環境	妹尾 理子	13	13
	【選択】ビジュアル・ツールを活用した国語学習の方法	山本 茂喜	30	30
	【選択】運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	米村 耕平	30	30
9月23日(土)	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み—3	加野 芳正 山岸 知幸	36	36
	【選択】体験型植物科学入門	五味 剣二	19	19
	【選択】ESDから始める道徳教育	伊藤 裕康	24	24
	【選択】子どもを取り巻く環境(メディア・生活習慣・身体活動等)と保健に関わる話	宮本 賢作	50	50
9月30日(土)	【必修】5)教育の最新事情	有馬 道久 松本 博雄	46	46
10月1日(日)	【選択必修】学校・家庭・地域の連携	清國 祐二	57	57
	【選択】絵画(木炭デッサン)制作	古草 敦史	10	10
	【選択】表現を探る—楽曲の分析を通して—	岡田 知也	8	8
	【選択】天文と気象に関する話題について	寺尾 徹 松村 雅文	16	16
10月8日(日)	【選択】日本社会史	守田 逸人	57	57
	【選択】発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	若井 健司	14	14
計			2,583	2,583

▶ 廃止講習(一次募集終了時に応募者が5名に満たなかった講習)

6月24日(土)	【選択】経済分析と統計学: 相関から回帰分析へ
6月24日(土)	【選択】理科で必要な思考操作能力の発達を促すイギリス型の授業の実習
7月1日(土)	【選択】植物の進化研究の最前線
7月9日(日)	【選択必修】初等教育における第二言語(英語)支援を認知言語学や国語科教育・他教科から考える。
8月9日(水)	【選択】実数論
8月22日(火)	【選択】ナノテクノロジーと電子材料
10月8日(日)	【選択】初等整数論と暗号理論への応用

■ 平成30年2月 追加開講

	講習数	定員
必修講習	1	120
選択必修講習	3	142
選択講習	11	426
合計	15	688

平成29年12月末現在

開設期間	講習名	講師名	定員	申込者数
2月3日(土)	【選択必修】学校、家庭並びに地域の連携及び協働	山本 珠美	54	54
	【選択】社会と歴史の教育	鈴木 正行	40	24
2月4日(日)	【選択必修】カウンセリング・コミュニケーションについての講義と演習	竹森 元彦	40	40
	【選択】衣生活の管理	小川 育子	16	13
	【選択】教師の指導が助長する問題行動とその見方	大久保 智生	100	100
2月10日(土)	【選択】エクセルを用いた基本統計処理	堀川 洋	25	25
	【選択】衣・食・住の生活文化と環境	妹尾 理子	15	13
	【選択】地球とその歴史を探る	寺林 優	40	40
	【選択】ESDから始める道徳教育	伊藤 裕康	30	22
2月12日(月)	【必修】6)教育の最新事情	柳澤 良明 岡田 涼	120	120
	【選択】環境に優しいマイクロスケール化学実験ならびに生物化学の基礎	高木 由美子 小森 博文	30	4
	【選択】子どもを取り巻く環境(メディア・生活習慣・身体活動等)と保健に関わる話	宮本 賢作	50	50
2月17日(土)	【選択必修】学校カウンセリングの基本	山田 俊介	48	48
2月18日(日)	【選択】アントレプレナーシップ教育	大北 健一	50	50
	【選択】国際社会における法制度と日本	山本 慎一	30	12
計			688	615

▶ 県別受講状況

年度	H25	H26	H27	H28	H29	
					6-10月	2月
香川	578	531	510	569	627	
(県外)						
徳島	7	10	13	14	13	
愛媛	24	17	35	21	27	
高知	3		7	4	2	
岡山	1	4	17	12	19	
広島		1	3	3	6	
その他	6	19	19	15	16	
小計	41	51	94	69	83	
合計	619	582	604	638	710	

▶ 年度別受講状況

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
								6-10月	2月
受講申込者数	561	717	585	619	582	604	638	710	
必修	473	595	497	508	497	484	554	558	
選択必修							537	526	
選択(延べ)	1,341	1,618	1,391	1,525	1,388	1,295	1,369	1,499	

## 2. 平成30年度 実施計画

(平成30年6月～10月)

	講習数	定員
必修講習	7	880
選択必修講習	21	902
選択講習	72	2,149
合計	100	3,931

※応募人数が5名に満たない場合は講習を廃止することがあります。日程等は変更する場合があります。

平成29年12月末現在

開設期間	講習名	定員	対象職種
6月2日(土)	【必修】1) 教育の最新事情	120	
6月3日(日)	【選択必修】学校、家庭並びに地域の連携及び協働1	54	教, 養, 栄
	【選択必修】教育相談はじめての第一歩—いじめ・不登校を中心に—1	40	教, 養, 栄
	【選択】SF文学のために	30	教
	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習1	30	教
	【選択】衣生活の管理1	16	教
6月9日(土)	【選択必修】学校・家庭・地域の連携1	70	教, 養, 栄
	【選択】篆刻 —印章の制作—	24	教
	【選択】小学校教員を対象とした器楽演奏の実践(リコーダー)	12	教
	【選択】児童期における体育・スポーツ指導	30	教
6月10日(日)	【選択】企業の社会的責任と社会的経済1	30	教, 養, 栄
	【選択必修】Visual Programmingと情報教育	10	教, 養, 栄
	【選択必修】学校、家庭並びに地域の連携及び協働2	54	教, 養, 栄
	【選択】ことばについて考える —日本語の音声を中心に—1	20	教, 養
6月16日(土)	【選択必修】教育相談はじめての第一歩—いじめ・不登校を中心に—2	40	教, 養, 栄
	【選択】国語科表現教育演習	30	教
	【選択】小中高理科で扱う圧力と真空の世界	25	教, 養
	【選択】企業の社会的責任と社会的経済2	30	教, 養, 栄
	【選択】楽しく学んで、楽しく実践、やさしい健康講座	60	教, 養, 栄
6月17日(日)	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習2	30	教
	【選択】衣生活の管理2	16	教
6月23日(土)	【必修】2) 教育の最新事情	80	
6月30日(土)	【選択必修】発達障害と教育相談	30	教, 養, 栄
	【選択必修】国際理解教育としての地理教育を考える	30	教, 養, 栄
	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント1	20	教
	【選択】経済学で使う数学1	30	教
	【選択】花の形づくりと遺伝子組換え植物の現状1	40	教, 栄
7月1日(日)	【選択】数や図形の見方の発展	25	教
	【選択】小学校教員を対象とした家庭科・製作学習の実践1	16	教
7月7日(土)	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント2	20	教
	【選択】哲学教育とこども哲学	15	教
	【選択】初歩の陶芸	16	教
8月1日(水)	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み—1	50	教, 養, 栄
	【必修】3) 教育の最新事情	180	
8月2日(木)	【必修】4) 教育の最新事情	180	
	【選択】地球とその歴史を探る1	15	教
8月8日(水)	【選択必修】学校カウンセリングの基本1	40	教, 養
	【選択】社会と歴史の教育1	40	教
	【選択】小学校教員を対象とした家庭科・製作学習の実践2	16	教
	【選択】女性のライフサイクルにおける健康支援について考える	35	教, 養
	【選択】臨床心理学的及び医学的側面からみた教育現場での問題への対応法について	50	教, 養, 栄
	【選択】ことばについて考える —日本語の音声を中心に—2	20	教, 養
8月9日(木)	【選択必修】学校教育について(不登校)	50	教, 養
	【選択】からだでこころで感じて動く表現の世界	25	教
	【選択】学校現場におけるトラブルと法的対応1	30	教, 養, 栄
	【選択】地球とその歴史を探る2	15	教
	【選択】プログラミング言語の最新動向	25	教

開設期間	講習名	定員	対象職種
8月9日(木)	【選択】花の形づくりと遺伝子組換え植物の現状2	40	教, 栄
	【選択】希少糖生産学の基礎	30	教, 養, 栄
	【選択】消費行動と生活経営	30	教
8月10日(金)	【選択必修】カウンセリング・コミュニケーションについての講義と演習	30	教, 養, 栄
	【選択】特別支援教育	30	教, 養, 栄
	【選択】環境に優しいマイクロスケール化学実験ならびに生物化学の基礎	30	教
8月17日(金)	【選択必修】学校カウンセリングの基本2	40	教, 養
8月18日(土)	【選択必修】教育相談場面における傾聴技法	40	教, 養, 栄
	【選択】教師の指導が助長する問題行動とその見方	100	教, 養
	【選択】食の安全の科学 -科学を無視した食の安全・安心-	60	教, 養, 栄
8月19日(日)	【必修】5)教育の最新事情	160	
8月21日(火)	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組みー2	50	教, 養, 栄
	【選択】外国人児童生徒とことばについて考える	10	教
	【選択】職業教育を考える	12	教
	【選択】発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	15	教
	【選択】エクセルを用いた基本統計処理1	35	教
	【選択】ナノテクノロジーと電子材料	25	教
	【選択】手洗い方法とその指導, 人の体のやさしい動かし方	36	教, 養, 栄
	【選択】社会と歴史の教育2	40	教
8月22日(水)	【選択】はじめての特別支援教育	100	教, 養, 栄
	【選択】株式会社の設立と運営	50	教, 養
	【選択】中国朝鮮族のトランスナショナルな移動と生活	40	教
	【選択】災害対応能力訓練システムを用いた学校現場における地震発生時の対応能力養成実習	20	教
	【選択】エクセルを用いた基本統計処理2	35	教
8月23日(木)	【必修】6)教育の最新事情	80	
9月1日(土)	【選択】科学史をふまえた理科教育論	30	教
	【選択】科学的思考力の発達を促進する理科授業の実習	20	教
9月2日(日)	【選択】数学ー中・高の教材に潜む高等数学	30	教
	【選択】ビジュアル・ツールを活用した国語学習の方法	25	教
9月9日(日)	【選択必修】道徳教育の充実	50	教, 養, 栄
	【選択必修】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育:過去と現在1	40	教, 養, 栄
	【選択】衣・食・住の生活文化と環境1	16	教
	【選択】運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	30	教
9月15日(土)	【選択】子どもの発育発達と体力	30	教, 養
	【選択】社会的企業と社会起業家	15	教
	【選択】ESDから始める道徳教育	30	教
9月16日(日)	【必修】7)教育の最新事情	80	
9月22日(土)	【選択必修】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育:過去と現在2	40	教, 養, 栄
	【選択必修】ICTを活用した「未来の学び」を、知ろう!→考えてみよう!→やってみよう!	24	教, 養, 栄
	【選択】衣・食・住の生活文化と環境2	16	教
	【選択】子どもを取り巻く環境(メディア・生活習慣・身体活動等)と保健に関わる話1	30	教, 養, 栄
9月24日(月)	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組みー3	50	教, 養, 栄
9月29日(土)	【選択必修】学校・家庭・地域の連携2	70	教, 養, 栄
	【選択】性はなぜあるのか?	25	教
	【選択】子どもを取り巻く環境(メディア・生活習慣・身体活動等)と保健に関わる話2	30	教, 養, 栄
	【選択】経済学で使う数学2	30	教
9月29日(土) ~30日(日)	【選択】身近な植物の生活とその調査法	24	教, 養, 栄
9月30日(日)	【選択】天文と気象に関する話題について	16	教
	【選択】絵画(木炭デッサン)制作	10	教
10月7日(日)	【選択】初等整数論と暗号理論への応用	30	教
	【選択】表現を探る-楽曲の分析を通して-	8	教
	【選択】学校現場におけるトラブルと法的対応2	30	教, 養, 栄
	【選択】日本社会史	100	教

## 思考力等の育成モデル校事業

### 1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、各教科等の指導において、主体的・協働的な言語活動を充実することにより、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、児童生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむため、モデル校を指定して研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、思考力・判断力・表現力等の育成に向けて言語活動等を充実させた授業づくりを先導的に推進し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

### 2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

### 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
坂出市立加茂小学校	平成 29 年 5 月 31 日 (水) 14:30 ~ 16:30	准教授 岡田 涼	心理学における思考力の発達とその育成について講話

### ※ モデル校の研究内容

#### ■ 坂出市立加茂小学校

研究主題 思考力を育む学びづくり

-ものの見方・考え方を広げ、深める指導方法の工夫-

## 学習習慣形成モデル校事業

### 1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、指導方法の工夫改善に加えて、家庭における生活リズムの改善や家庭学習の習慣化が重要であり、家庭や地域と連携して、基本的な生活習慣や学習習慣を形成することが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、特に児童生徒の学習習慣の形成に重点的に取り組むモデル校を指定し、研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、学校での授業や活動が学習習慣の確立につながる指導及び家庭や地域との連携の在り方等を先導的に研究し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

### 2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、授業づくりに向けた事前研修会などモデル校を適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

### 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立川島小学校	平成 29 年 7 月 27 日 (木) 13 : 00 ~ 15 : 00	准教授 岡田 涼	学習習慣の形成に関する講話
さぬき市立長尾小学校	平成 29 年 9 月 27 日 (水) 15 : 10 ~ 16 : 30	准教授 山本木ノ実	通常学級における特別支援教育と学習習慣について講話

#### ※ モデル校の研究内容

- 高松市立川島小学校  
研究主題 学びに向かう力を育成するための川島スタイルの創造  
ーキャリア教育の視点を取り入れた学習習慣形成の在り方ー
- さぬき市立長尾小学校  
研究主題 自ら学びに向かい、ともに認め合い、高め合う子どもの育成  
ー家庭と連携し、自己を高める学習習慣の形成を目指してー

## 学習意欲向上モデル校事業

### 1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、各教科等の指導において学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うことが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、特に児童生徒の学習意欲の向上に重点的に取り組むモデル校を指定し、研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、興味・関心を生かし、学習意欲を喚起する授業づくりを先導的に推進し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

### 2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、授業づくりに向けた事前研修会などモデル校を適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

### 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
三豊市立詫間小学校	平成 29 年 8 月 28 日 (月) 9 : 00 ~ 11 : 00	教授 佐藤 明宏	児童とともに学ぶ学習問題に重点をおいた授業づくりについて講話

### ※ モデル校の研究内容

#### ■ 三豊市立詫間小学校

研究主題 「こころはずむ、主体的に学ぶ授業づくり」  
—互いに学び合い、高め合う児童の育成—

## アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

### 1 趣旨について

子供たちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、「どのように学ぶか」という学びの質を重視し、子供たちの「主体的・対話的で深い学び（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）」（以下、アクティブ・ラーニング）を実現する必要がある。

本事業は市町との連携・協力の下、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を先導的に研究するために、モデル校を指定するものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の研究を行い、その成果を普及することで、県下の児童生徒の資質・能力の向上に資するものとする。

### 2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、香川の教育づくり発表会・香川県教育センター発表会を通して研究成果の普及・啓発に努める。また、授業の積極的な公開に努める。
- (3) モデル校は、香川県教育センターの調査研究事業に協力する。
- (4) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などを行い、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (5) 香川県教育委員会は、必要に応じて香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、モデル校に指導主事を継続的に派遣して適切に支援したりモデル校の取組を評価したりする。

### 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
さぬき市立さぬき南中学校	平成 29 年 8 月 21 日 (月) 10:10 ~ 12:10	准教授 十河 妹	ワークショップ、指導

#### ※ モデル校の研究内容

- さぬき市立さぬき南中学校  
研究主題 なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成  
～話し合い活動を軸として～

## 幼児教育支援員派遣事業

幼児教育に関する知識・経験を有する者を幼稚園に派遣することによって、「香川県幼児教育振興プラン」（平成 22 年 2 月）の趣旨の普及及び地域の実情に応じた具体的な取組を進め、もって香川県内の幼児教育の推進を図ることを目的とする。

幼稚園と幼児教育支援員が協力して、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 幼稚園における遊びの充実
- 園内研修の活性化
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について

### 1 幼児教育支援員

「幼児教育支援員」（以下「支援員」という。）とは、次の者をいう。

- (1) 幼児教育に関し識見を有する者であって、香川県教育委員会事務局（以下「県教育委員会」という。）義務教育課長が指名する者
- (2) 県教育委員会指導主事

No.	氏名	役職 分野
1	松井 剛太	香川大学教育学部准教授 幼児教育
2	松本 博雄	香川大学教育学部准教授 幼児教育
3	片岡 元子	香川大学教育学部准教授 幼児教育
4	金子 之史	香川大学教育学部名誉教授 理科教育

### 2 支援員の職務

支援員の職務は、次のとおりとする。

幼稚園の申請に基づき、幼稚園を訪問し、公開保育の参観・研究協議会の参加等を通じて、指導・助言を行う。

### 3 派遣実績（9市町21園）

	園 名	訪問日時	研修内容	支援員
1	まんのう町立琴南こども園	H29年6月1日(木)	子ども理解	片岡元子先生
2	三木町立白山幼稚園	H29年6月6日(火)	遊びが充実するための環境構成と支援	金子之史先生
3	まんのう町立長炭こども園	H29年6月15日(木)	園内研修のもち方	松井剛太先生
4	丸亀市立郡家幼稚園	H29年6月16日(金)	遊び込める環境構成や支援	金子之史先生
5	高松市立木太幼稚園	H29年6月27日(火)	現教テーマに基づいた環境構成や支援	金子之史先生
6	小豆島町立池田幼稚園	H29年6月19日(月)	指導計画の作成・改善	金子之史先生
7	高松市はらこども園	H29年6月20日(火)	遊びの中の学びを見取る視点	金子之史先生
8	まんのう町立満濃南こども園	H29年7月11日(火)	若年保育者を育てるベテラン保育者の役割	松井剛太先生
9	綾川町立粉所幼稚園	H29年7月12日(水)	要領改訂を踏まえた今後の保育	片岡元子先生

## 資料 8 - 5

10	三豊市立豊中幼稚園	H29年7月12日(水)	マンモス園のよさを生かした研修の在り方	片岡元子先生
11	まんのう町立四条こども園	H29年10月4日(水)	学級経営	松本博雄先生
12	高松市立一宮幼稚園	H29年10月13日(金)	協同的な遊び	松本博雄先生
13	丸亀市立あやうたこども園	H29年10月16日(月)	幼児の内面理解	松井剛太先生
14	まんのう町立高篠こども園	H29年10月17日(火)	子ども園について 幼児の主体性を大切にする教育	片岡元子先生
15	丸亀市立西幼稚園	H29年10月19日(木)	保育の改善点	松井剛太先生
16	まんのう町立仲南こども園	H29年10月30日(月)	見取り、環境等への計画的な実践	松井剛太先生
17	東かがわ市立福栄やまびこ園	H29年11月2日(木)	異年齢保育の在り方	松本博雄先生
18	丸亀市立城辰幼稚園	H29年10月17日(火)	放送やメディアを取り入れた環境づくり	金子之史先生
19	さぬき市立さぬき北幼稚園	H30年1月12日(金)	環境構成や援助のタイミング	片岡元子先生
20	高松市立鬼無幼稚園	H30年1月30日(火)	保育内容 支援や環境構成	片岡元子先生
21	高松市立国分寺北部幼稚園	H30年2月9日(金)	協同性を育む環境構成や支援	松本博雄先生

## 豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進

### 道徳教育推進のポイント

- ◆ 道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う指導の工夫
- ◆ 全教師の協力による道徳教育の展開
- ◆ 家庭、地域社会との効果的な連携

#### 趣旨

道徳教育は、道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行われるものとされており、各学校においては、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実とともに道徳の時間の指導の充実が求められている。平成 27 年 3 月には学習指導要領の一部改訂が行われ、小学校は平成 30 年度、中学校は平成 31 年度から、道徳の時間は「特別の教科 道徳」として位置付けられる。教科化を踏まえ、生命を大切に作る心や思いやりの心等の倫理観や規範意識、社会性等を育むため、道徳の時間の充実を図るとともに、学校・家庭・地域社会が一体となって取り組む道徳教育を推進する。



#### 「いのちのせんせい」派遣事業

- 常に「生」や「死」に直面している助産師や介護福祉士、獣医師、手話通訳士など、命を守り、命を大切に生きていく意味を語ってくださる方を「いのちのせんせい」として希望する小・中学校に派遣し、体験的、感動的な道徳教育を展開する。
  - ◆平成 29 年度 151 校に派遣予定 (6~2 月)

#### 道徳教育指導力向上研修

- 道徳の教科化を踏まえ、道徳の時間における指導の工夫について研修を深めるとともに、各学校における道徳教育の推進を図る。
  - ◆平成 29 年 8 月 23 日 (水)、県教育センター  
講話：齋藤嘉則准教授
  - ◆平成 29 年 10 月 17 日 (火)、19 日 (木)、県教育センター  
中央研修等報告、実践発表、教科調査官の講話

#### 道徳教育地域支援事業 (国)

- 学校や地域の実情に応じた特色ある道徳教育を推進する。
- 県教委が作成している地域読み物資料「新ふるさとの心」を児童生徒に配布することで、道徳の時間における積極的な活用を推進する。
    - ◆10 月に配布
  - 道徳教育研究推進校における実践研究 (平成 29 年度研究推進校 高松市立香東中学校、観音寺市立豊浜小学校、三豊市観音寺市学校組合立三豊中学校、さぬき市立志度小学校)
    - ◆第 1 回推進会議 (平成 29 年 6 月 2 日)、第 2 回推進会議 (平成 30 年 2 月 8 日) での指導講話：植田和也准教授、齋藤嘉則准教授

#### 心のメッセージコンクール

- 温かな言葉をかけたりかけられたりした経験等を短い文章と絵で表現した「心のメッセージ」を募集し、児童生徒の自尊感情の高揚と道徳的实践や心情と結びつけた道徳教育の一層の推進を図る。
  - ◆審査会 平成 29 年 10 月 24 日 (火) 県教育センター 審査委員長 佐藤盛子准教授

## キャリア教育充実事業（プロを講師とした授業）について

### ア 趣旨

県立高校における「各教科・科目」等の授業の適切な場面において、社会から優れた知識・技術・経験を持つ人材を学校教育に迎え入れ、多様な教育活動を実践することにより、学校教育の充実と活性化を図る。

### イ 内容

#### (1) 学習活動の活性化、教育内容の充実、知識・技能の深化及び総合化

- ・ 現在の先端技術や最新の研究、情報等の提供。
- ・ 学校の施設・設備では行えない実験・実習分野について、最新の施設・設備を有する企業や研究機関における実験結果や機器の使用を通じて、具体的な知識を得る。
- ・ 専門分野の話聞くことにより、学習内容の深化を図る。
- ・ 総合的な学習の時間において、生徒の主体的な取組を促進する。

#### (2) 社会の第一線で働く人の姿に触れることにより、将来の自己の在り方、生き方や進路を考える上での有益な糧の入手、職業意識の高揚

- ・ プロの技術を教授されることにより、職業人に対する尊敬の意識を持つとともに、産業社会の実情を知る。
- ・ 専門的な内容に触れ、自らの進路選択の上で参考にする。
- ・ 社会的な視野を深め、広げる。

### ウ 香川大学との連携について

平成 29 年度は、4 校 7 時間 4 名の香川大学の教職員を社会人講師として県立高校に招聘した。

教科学習の専門性を深める目的での授業の展開や、「総合的な学習の時間」での進路意識の醸成や、専門的な学究への関心を高めることに大きな効果をあげている。

## 高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）について

### 1 概要

本事業は、平成 15 年 2 月 13 日に高校生等に大学における高度な教育・研究に触れる機会を提供し、学問に対する興味・関心や自ら学ぶ意欲を高めさせるとともに主体的な進路選択ができるようにするため、県教育委員会と香川大学との間で高校と大学との連携に関する協定を結び、県下のすべての高校生等が、香川大学の授業や高校生を対象とした公開講座を受講できるようにしたものである。

### 2 授業の公開・開講状況・受講状況

平成 27 年度の第 1 学期には、「子育ての今と昔」「哲学」「歌唱法基礎 A」「工芸 I A 及び工芸 I B」の 4 科目が、第 2 学期には「福祉住環境論」の 1 科目が、放課後に大学へ通学して大学生と一緒に受講するものとして公開された。これらの授業は 16:20～17:50 もしくは 18:00～21:10 に行われている。

また、夏季休業中には、オープンキャンパスの一環として高校生を対象に実施する体験授業として、「新しい教職への扉をひらく (part2)」を実施した。

「新しい教職への扉をひらく (part2)」を 39 名が受講した。

### 3 受講の手続き

受講までの具体的な手続きは、大学での受講を希望する生徒が、学修を行うにふさわしいかどうかを校長が判断し、県教育委員会を通して大学へ推薦する。大学側で人数等の調整を行い、県教委に対して受講決定に関する通知を行い、県教委はその結果を各高校を通じて受講者に通知する。

### 4 授業料等

授業料については、公開授業が 1 科目あたり 2,300 円、体験授業はオープンキャンパスの一環として実施するので無料である。ただし、大学の教員が指示するテキスト等の代金、大学の施設・設備を誤って汚損した場合に備えて賠償責任保険への加入が望ましい。

### 5 成果の認定等

受講状況が良好であり十分に成果を上げたと認められる生徒に対しては、大学から修了証書が発行される。なお、体験授業については、修了証書は発行されない。

また、学校外の学修に関する単位認定制度を設定している学校においては、生徒の申請を受けて審議し、校長の判断により高等学校の単位として認定することができる。

## 学生ボランティア派遣事業

## 1 対象

将来教育関係の分野に進むことを希望する香川大学の学生

※ 前期募集は2学年以上、後期募集からは第1学年も可とする。

## 2 主な活動内容

小・中学校や教育支援センター（適応指導教室）へ派遣し、学習活動、野外活動及び体験的な活動等学校生活全般において、児童生徒とともに活動する中で、児童生徒の心の悩み等の解消や学校教育活動の活性化を図る。

## ア 小・中学校

- ・ 学習活動の補助
- ・ 体験活動や校外学習など学校教育活動及び学校行事への補助
- ・ 学校生活への適応補助
- ・ 別室登校生等への指導補助

## イ 教育支援センター（適応指導教室）

- ・ 日常活動の補助
- ・ 生活指導・学習指導の補助
- ・ 野外活動等体験活動の補助

## ウ その他（さぬきっ子人権感覚育成事業等）

## 3 大学と教育委員会との連携内容

ア 募集前に本事業についてのガイダンスを行う。（大学と県教委）

イ 学生ボランティアの募集票の提示と登録名簿の作成を行う。（大学）

ウ 希望者の派遣先へ通知する。（県教委）

エ ボランティア活動中に随時学生の相談を行う。（大学と県教委）

オ 年度末に本事業に参加した学生による発表会を実施する。（大学）

カ 大学と県教委が協議会を行い、意見交換を行う。（大学と県教委）

キ ボランティア終了後、派遣校からそれぞれの学生への評価等によって感謝状を贈る。（県教委）

## 学生ボランティア派遣状況（H29.12.10 現在）

	28年度						29年度					
	登録(継続含む)			派遣(継続含む)			登録(継続含む)			派遣(継続含む)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1
2年	1	3	4	1	3	4	4	2	6	4	2	6
3年	3	8	11	3	8	11	1	9	10	1	9	10
4年	1	6	7	1	6	7	3	11	14	3	11	14
院生等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	6	17	23	6	17	23	9	22	31	9	22	31

## 派遣先

	28年度			29年度		
	要請があった学校数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等	要請があった学校等の数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等
小学校	41	21	19	35	22	13
中学校	4	1	1	1	1	0
教支援セ	2	0	2	1	0	1
その他	19	17	2	17	17	0
計	66	39	24	54	40	14

派遣要請に対する派遣率 59.1%

派遣要請に対する派遣率 74.1%

ユーチューブで紹介ビデオを配信しています。  
「ユーチューブ 香川県 放課後子ども教室」で検索してください。



# 放課後子供教室で 子どもたちの居場所づくりの お手伝いをしませんか？



学校では見せない子  
どものイキイキとした  
表情が見られます!!

香川県教育委員会事務局  
生涯学習・文化財課

放課後子供教室（文部科学省所管事業）の活動を支援する人材確保対策として、香川大  
学に学生ボランティアの派遣について依頼を行います。



## 放課後子供教室とは…

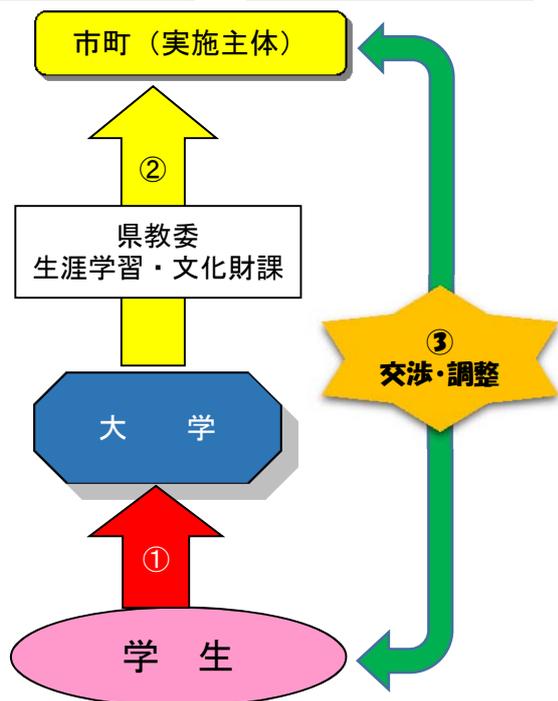
放課後等に小学校の余裕教室等を活用して、全ての  
子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、地域  
の方の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動、地  
域住民との交流活動等の機会を提供する事業です。

ちなみに…、放課後児童クラブ（いわゆる学童保育）  
は厚生労働省所管事業です。

## 【ボランティアを開始するまでの流れ】

### まずは登録

- ① ボランティア登録  
ボランティアを希望する学生は、「学生ボランティア登録  
申込書」に必要事項（「放課後子供教室」の欄へのチェッ  
ク、希望する子供教室名の記入など）を記入し、学部の教  
務係に提出します。  
\*「連絡先」に記入する電話番号・携帯電話番号は、必ず連  
絡が取れる番号をお願いします。
- ② 情報提供  
登録情報は、大学から県教委を通じて関係する市町へ提供  
されます。
- ③ 交渉・調整  
登録情報を受け取った市町から、後日、連絡があります。  
参加日時等について市町の担当者と調整を行います。



## 豊かな人権感覚を育てる事業「出会い・ふれあい・発見隊」学生ボランティア募集

### 1 目的

- 県内の小・中・高校生が、「出会い・ふれあい・発見隊」を結成し、人権尊重社会の実現に向けて努力している人々と出会い、そこでの豊かな体験を通して、人権感覚を高め、自分の生き方を豊かに創り上げていくための力を身に付けさせる。
- 県内の教員（若年者）や教員をめざす学生（学生ボランティア）が、「出会い・ふれあい・発見隊」と一緒に活動することで、人権教育の指導内容や方法についての資質の向上を図る。

### 2 主催 香川県教育委員会事務局人権・同和教育課（以下「人権・同和教育課」）

### 3 参加及び申し込み手続き

#### （1）参加対象者

- ・ 県内小・中・高・特別支援学校に在籍する児童生徒のうち参加を希望する者 35名程度（先着順）
- ・ 小学1～3年生の保護者及び参加を希望する保護者
- ・ 県内小・中学校、高等学校の教員（特に若年者）のうち参加を希望する者 若干名
- ・ 教員をめざす学生のうち参加を希望する者 10数名
- ・ 穴吹ビジネスカレッジ日本語学科の留学生のうち参加を希望する者 10名程度

#### （2）申し込み手続き

- ・ 参加を希望する者は、人権・同和教育課に応募用紙を提出する。
- ・ 応募のあった保護者、教員、学生は、原則として参加者とするが、応募状況によっては人権・同和教育課において調整を行う場合がある。また、過半数以上参加できる者に限る。

### 4 活動日時・場所・内容等（参考；平成29年度）

- ① 7月29日（土） かがわ総合リハビリテーションセンター（現地集合）  
くでけでけ隊の皆さんに、よさこいを教えてもらおう！ 障害者スポーツを体験しよう！
- >
- ② 9月30日（土） 国立療養所大島青松園（高松港集合）  
く入所されている方が得意としていることを一緒に体験しよう！>
- ③ 10月21日（土） 五色台少年自然センター（高松駅集合）  
く外国の人たちと、うどんづくりやゲームを通して交流しよう！>
- ④ 12月2日（土） サンポートホール高松（現地集合）  
く「みんなで考える人権のつどい」を成功させよう！>



## 第 16 回 「未来からの留学生」を終えて

実行委員会 宮崎英一

本年度、2017年10月15日（日）に第16回「未来からの留学生」を開催致しました。今回は悪天候のため、参加入場者数の減少を危惧しておりましたが、予想に反して多くのご参加を頂き、有難うございました。また当日は大きなトラブルもなく、無事に最後まで開催出来た事も合わせてご報告させていただきます。

本年は公開講座18講座、自由参加講座12講座の講座が開講されました。講座を担当した学生は早くから準備に取り掛かり、例年のように前日遅くまで準備に追われていました。しかし当日は、担当した講座においては生き生きとした表情で児童・生徒と触れ合っていました。「未来からの留学生」での実践を通じて、普段の講義や学校参観とは異なった、より身近な場面での体験を得る事が、学生の今後の教師としての1つの大事な経験になると改めて確認致しました。



最後になりますが、「未来からの留学生」開催に様々な形でご協力を頂きました、講義担当者、学生ボランティア、事務担当の皆様方、有難うございました。

## 平成29年度特別支援教育コーディネーター協議会

## 1 目的

幼稚園、認定こども園、小・中学校並びに高等学校において、発達障害を含む障害のある児童生徒の指導・支援を充実させるために、また、特別支援学校のセンター的機能を充実させるために、そのリーダー的役割を担う特別支援教育コーディネーター等を対象に、特別支援教育に関する現代的課題を共有することを目的とする。

## 2 対象 及び 受講者数

	月日	地域	対象	受講者数
全体	7月21日	全県	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	374名
県立	9月21日	全県	高校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	37名
地域別	9月26日	小豆	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	20名
	10月3日	仲善	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	44名
	10月13日	西讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	56名
	11月8日	高松	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	99名
	11月17日	東讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	31名
	12月8日	中讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	70名

## 3 研修テーマ 及び 講師 (香川大学)

実施日	研修テーマ	講師 (香川大学教育学部)
7月21日	特別支援教育概論	教授 坂井 聡
9月29日	高等学校における支援	准教授 小方 朋子
9月26日	心理教育アセスメント ～評価から支援へ～	准教授 中島 栄美子
10月3日	学校支援体制と外部機関との連携	教授 宮前 義和
10月13日	行動面の問題への対処と社会性の支援	教授 武藏 博文
11月17日	発達とコミュニケーション	教授 坂井 聡
12月8日	協調運動障害の特徴と体育授業での配慮	准教授 米村 耕平

## 香川 CST 事業

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー）養成拠点構築事業において、香川大学と香川県教育委員会が共同して提案した企画が平成 23 年度に採択された。支援期間は平成 26 年度までであった。平成 27 年度以降は「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」のもとに設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が業務を引き継ぎ、CST 養成プログラムを実施し、CST 活動を推進することになった。平成 29 年度の主な取組みは以下のとおりである。

### ■受講者

#### (1) 学生

小学校 CST＝（継続 2 名、新規 0 名）

平成 29 年度前期修了 0 名、後期修了予定 2 名

（平成 26 年度修了 59 名、平成 27 年度修了 66 名、平成 28 年度修了 66 名）

教材 CST＝33 名（継続 22 名、新規 11 名）

平成 29 年度前期修了 1 名、後期修了予定 3 名

（平成 26 年度修了 6 名、平成 27 年度修了 7 名、平成 28 年度修了 4 名）

### 1. 教材 CST 研修会

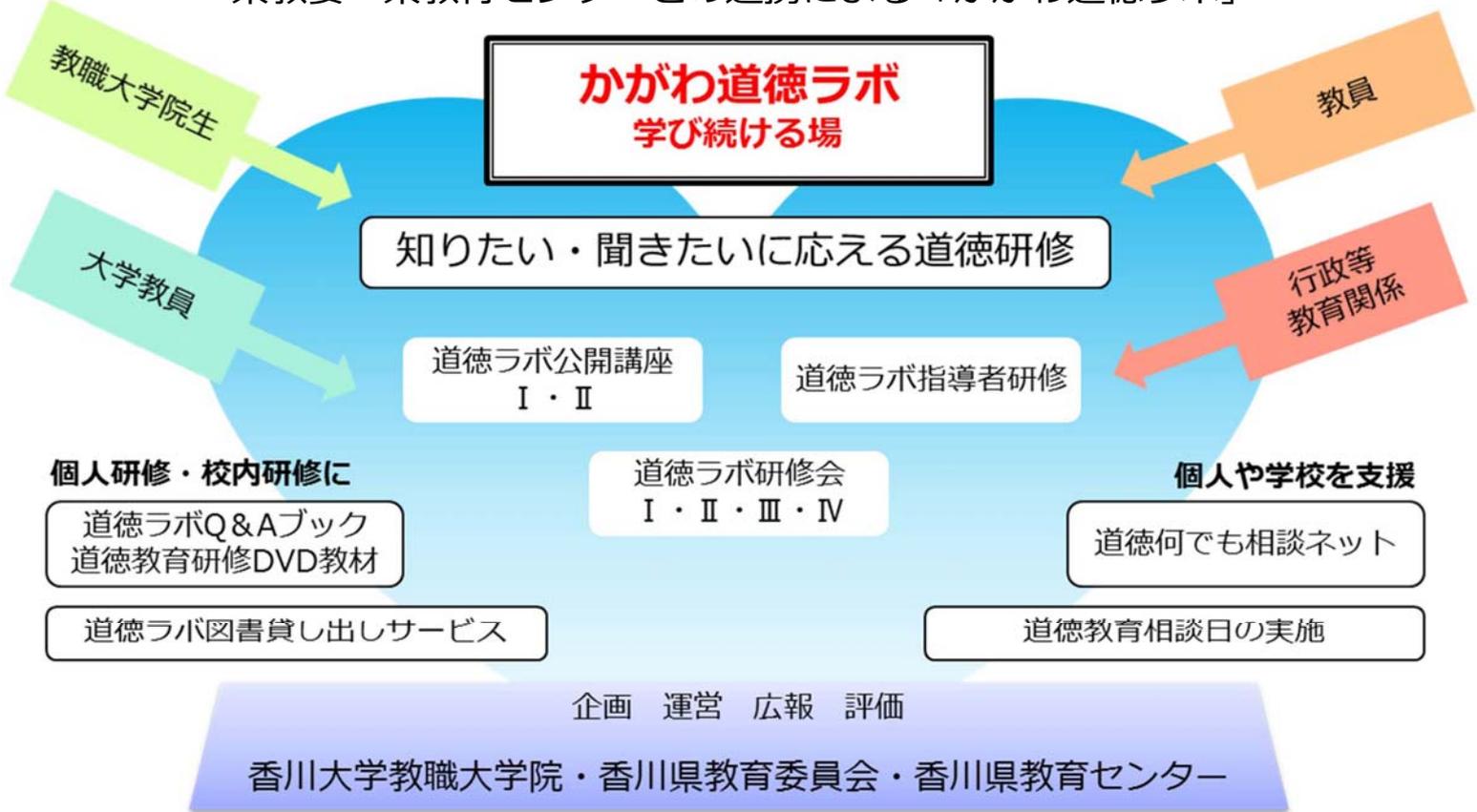
#### 1-1 実験・観察教材開発研修会

	日付	内容	場所
1	2017 年 5 月 18 日	CST 指導教員による特別授業 「讃岐の火成岩」について検討	附属坂出中学校
2	2017 年 6 月 15 日	・ノリの光合成色素の抽出 ・炭酸水素ナトリウムの加熱時の質量変化	附属坂出中学校
3	2017 年 10 月 19 日	・簡易立体視キューブ作り ・ミニクント管作り ・簡易地震計の研究	附属坂出中学校
4	2017 年 11 月 16 日	・やじろべえを応用した自動歩行ロボットの製作 教材紹介 ・イオンの色を利用したイオン化傾向を調べる実験 ・野菜を使った原子の粒の大きさを実感させる実験	附属坂出中学校
5	2018 年 2 月 9 日	教材紹介	香川大学

6	2018年2月15日	教材紹介	附属坂出中学校
7	2018年2月15日	教材紹介	附属坂出小学校
8	2018年3月2日	教材紹介	香川大学

1-2. 理科授業力向上研修

	日付	内容	場所
1	2017年6月9日	3年「運動とエネルギー～物体の運動と力関係～」 自分たちで計画した実験で得られた結果の信頼性 や妥当性を意識して、その真意を検討する。	附属高松中学校



H29.7.24かがわ道徳ラボ公開講座 I  
 (「道徳何でもQ&A」での質疑応答)



H29.8.5かがわ道徳ラボ研修会 I  
 (演習：タブレット活用)



H29.9.30 かがわ道徳ラボ研修会 II  
 (道徳科の評価について)



H28.8.4 かがわ道徳ラボ公開講座 II  
 (演習：具体的な指導や発問づくり)



H28.12.10 かがわ道徳ラボ研修会 II  
 (学校現場の取組や悩みに応えて)



平成28年度かがわ道徳ラボ教材  
 「道徳教育研修DVD教材」

**参加者の声に寄り添い改善**

**実践につながる学び！**

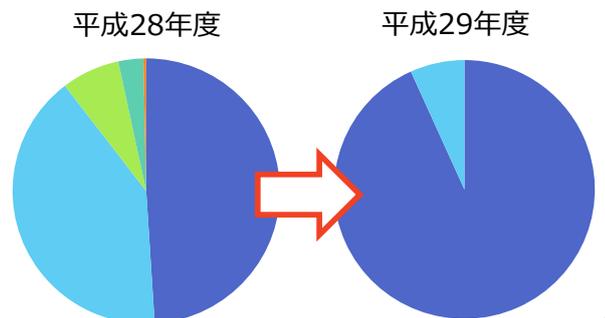
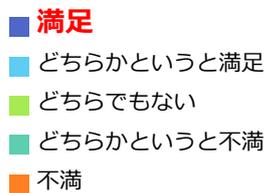
授業づくりのヒントが多く学べた

**深い理解！**

道徳についてより深い理解ができた

**取組への意欲！**

校内でも取り組んでみようと感じた





白壁とともに未来へ・・・

坂出高校創立百周年（H29）

## 坂出高等学校 教育創造コース コース開講式 を実施しました

平成 29 年度、坂出高校に香川県としては初めて教員を目指す高校生を対象にしたコースが設けられました。香川大学教育学部と連携して教員を目指す生徒を対象にした「教育創造コース」のコース開講式が、4月11日に、第1期生の1年生 40 人のほか、香川大学の教授 4 名と県教育委員会高校教育課から 4 名が出席して行われました。

はじめに香川大学教育学部の毛利猛学部長が「教育というのは地域に貢献し役立ちたいと考える人たちの集まりです。教員を目指す皆さんに期待しています」と激励しました。



そして生徒を代表して山地奏太さんが「仲間たちと切磋琢磨し、将来の香川の教育を担う人材になるため精いっぱい頑張ります」と誓いのことばを述べました。

そのあと生徒たちはグループごとに分かれて大学の教授らと懇談し、

「教員になるには失敗してもいいから経験を積んでいくことが大事です」などとアドバイスをもらっていました。



1人の女子生徒は「自分の悩みを聞いてくれたかつての先生のようにになりたいです」と話していました。

生徒たちは今後、▼小学校で実習を行ったり、▼教育学部の教授による講義を受けたりすることになっています。





白壁とともに未来へ…

坂出高校創立百周年（H29）

## 香川大学教育学部附属坂出小学校で 授業参観・体験活動 を実施しました

5月16日（火）11:45～13:55に、本校に隣接する、香川大学教育学部附属坂出小学校において「授業参観・体験活動」を行いました。



各クラスに分かれて授業参観。  
先生方の指導の様子や、児童の  
活動について、気が付いたことを  
ノートにメモします。

給食（高校生は弁当）の前に  
自分の名前とすきなものを  
フリップで紹介。



昼休みにしっかり遊んで…



掃除して今日の活動は終わりです。  
また今度。





白壁とともに未来へ・・・

坂出高校創立百周年（H29）

## 香川大学教育学部からの出前講座-1

を実施しました

5月30日 7時間目、香川大学教育学部から山神眞一教授を招き、本校にて「人と出逢い、共に成長するために」という題で講義をしていただきました。



山神先生と生徒とのデモン  
ストレーションに大喜び。

まずはペアになって、お互いが  
コミュニケーションを取り合う  
練習をしてみることに。



自分たちでもやってみることに。  
握手してじゃんけんして、勝ったら  
相手の手にタッチ。負けたら逃げる。  
など数種類のゲームをしました。



コミュニケーション  
診断テスト

コミュニケーション能力  
とは・・・



ありがとう  
ございました



白壁とともに未来へ・・・

坂出高校創立百周年 (H29)

## 香川大学教育学部附属坂出小学校で 授業支援 を実施しました

6月13日(火)10:45～13:05に、本校に隣接する、香大教育学部附属坂出小学校において「授業支援」を行いました。

オリエンテーションの後、5科目、6クラスに分かれます。



3年体育(水泳)



5年家庭科(裁縫)



5年音楽(リコーダー)



1年図工(箱を組み合わせて工作)



2年生活科(学級園の観察)



支援で入ったクラスで給食タイム♪  
余ったデザートをかけてみんなで  
じゃんけん。

今度は9月の坂高祭で高校に来てね。

# 香大附属坂出小学校の昼休みにおじゃましました

## 読み聞かせ



「こくはくします」

「100かいだての家」



「こんとあき」

## 工作



折り紙



紙コップけん玉



安全スライム



ボトルキャップケーキ

みんな来てくれてありがとう♪



白壁とともに未来へ・・・

坂出高校創立百周年（H29）

## 香川大学教育学部からの出前講座-2

を実施しました

9月26日 7時間目、香川大学教育学部から野崎武司教授を招き、本校にて「最近の教育を取り巻く課題」という題で講義をしていただきました。



ペアで話し合ってみた。



「情熱」・・・ あるかなあ。



まとめてみよう。



ありがとうございました。



白壁とともに未来へ・・・

坂出高校創立百周年（H29）

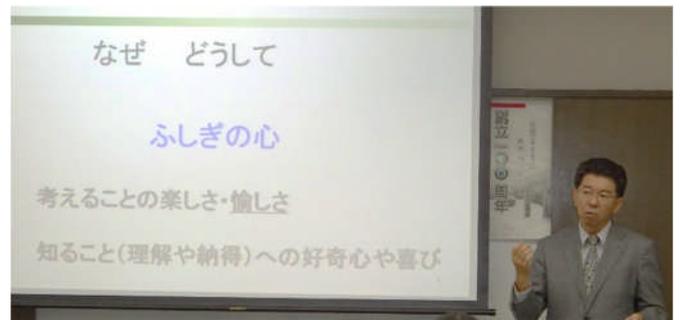
## 香川大学教育学部からの出前講座-3

を実施しました

10月17日 7時間目、香川大学教育学部から植田和也先生を招き、本校にて、「子どもとの接し方、関わり方」という題でご講義いただきました。



まずは得意の手品でイントロダクション  
～からの「考えることの大切さ」



自分の長所は何か？



「ありがとうございました。」



白壁とともに未来へ・・・

坂出高校創立百周年（H29）

## 香川大学教育学部からの出前講座-4

を実施しました

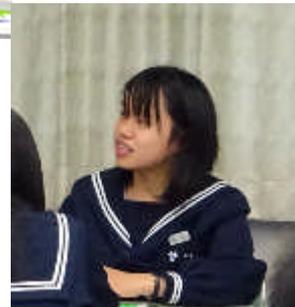
10月31日 7時間目、香川大学教育学部から有馬道久先生を招き、本校にて、「教育心理学を学ぶ」という題でご講義いただきました。



ピグマリオン効果とゴーレム効果の実例を考えてみよう。

何か思い付く人はいるかな。

そういえば  
こういうことが  
ありました...



「ありがとう  
ございました。」



白壁とともに未来へ・・・

坂出高校創立百周年（H29）

# 香川大学教育学部附属坂出小学校で 附小フェスタ準備支援 を実施しました

11月14日(火) 4～6限目、4、5、6年生のクラスに入って準備のお手伝いをさせていただきました。

## 4年生：演劇



先生も入って楽しそうな演技



「ここが良かったよ」

## 5年生：うどん作り



ざるの底にくっついてなかなか取れません



「いただきます♪」

## 6年生：附ッザニア



「みんなの方が上手だね」



ぐるぐるバット→この後倒れます



白壁とともに未来へ・・・

坂出高校創立百周年 (H29)

# 香川大学教育学部からの出前講座-5

## を実施しました

11月28日 7時間目、香川大学教育学部から七條正典先生を招き、本校にて、「心の教育について考える」という題でご講義いただきました。

心ってどこにある  
と思いますか？



人生の分岐点に  
立ったとき、  
どのように生きる  
べきかよく考えて  
選択することで、  
自分の生き方を  
よりよく変える  
ことができる。

私の班で  
の意見は  
・・・



「ありがとうございました。」

# 教員目指して 仲間と成長を

今年創立100周年を迎えた坂出高校(平畑博人校長)に県内で初めて設置された、教員を志望する生徒対象の「教育創造コース」の開講式が11日、坂出市文京町の同校で開催された。1期生40人が教職への夢に向けて、仲間と共に成長することを誓った。

## 坂出高の県内初コース開講式



「頑張るぞー」と大きな声で気持ちを高める教育創造コースの1期生。坂出市文京町、坂出高

# 1期生40人が決意

同コースでは、国立大の教育系学部への進学を目指して、積極的に学習するほか、香川大教育学部から

教授らを招き、子どもへの接し方や学級づくり、教育心理学などの講義を受け、近くの付属抜出を定期的に行い、授業

支援や読み聞かせ、食・歯磨きの指導などを行い、児童との触れ合いを深める予定。初年度の生徒は男子11人、女子29人。  
開講式では、香川大教育学部の毛利理学部長が「教育は創造的な営み。与えられるのではなく、みんなでこのコースを作っていくほしい」と激励。生徒代表の山地素太さんが「同じ志を持つ仲間と共に成長し、助け合い、切磋琢磨して、将来の香川の教育を担う人材になるため、精いっぱい頑張ることを誓います」と力強く述べた。

引き続き、生徒はグループに分かれて香川大の教授や県教委の高校教育課職員らと懇話。「1日頃から家でもうだいに勉強を教えていて、感謝された」「勉強も人間関係も教えてくれた中学校の先生のようにになりたい」など、教職を目指したきっかけや理想の先生像などを熱く語り合った。

最後には、全員で「頑張るぞー、オー」と大きな声を上げ、目標をかなえるよう気持ちを高めた。

## 覺書・要項

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協力に関する覚書

### (目的)

第1条 香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）とは、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る。

### (実施機関)

第2条 前条に規定する連携協力は、甲（その附属機関を含む。以下同じ。）と乙（その所管する教育機関を含む。以下同じ。）の間で実施する。

### (研究及び活動の内容)

第3条 第1条の規定に基づき連携協力して実施する内容は、次のとおりとする。

- (1) 教員養成に関する事項
- (2) 教員研修に関する事項
- (3) 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- (4) その他両者が必要と認める事項

### (連携の方法)

第4条 甲と乙は、連携協力に当たってそれぞれ職員の派遣及び受け入れについて協力するとともに、自らの有する施設等の利用についても、業務に支障のない範囲で双方便宜を供するものとする。

### (連携協議会)

第5条 甲と乙は、相互に連携協力を推進するため、「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」（以下「連携協議会」という。）を置く。

### (経費)

第6条 連携協力の推進に関わる経費については、各機関が負担する。ただし、職員の派遣経費は、要請した側が負担する。

### (補則)

第7条 この覚書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。

2 この覚書に定める事項に疑義が生じた場合は、甲と乙は協議してその解決を図るものとする。

この覚書は、2通作成し、甲と乙がそれぞれ1通を所持するものとする。

平成14年 5月30日

香川大学教育学部長  
妻 鳥 敏 彦

香川県教育委員会教育長  
惣 脇 宏

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項

### 1. 設置

香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）との連携協力に関する覚書第5条の規定に基づき、香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

### 2. 事業

協議会は、連携協力に関する事項等について協議するため、年1回程度開催する。

### 3. 組織

協議会は、別表に掲げる職にある者をもって組織する。

### 4. 役員

協議会には、会長、副会長を置き、会長には香川大学教育学部長をもって充てるとともに、副会長には香川県教育委員会教育長をもって充てるものとする。

会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、副会長がその職務を代理するものとする。

### 5. 専門委員会

協議会に、連携協力に係る具体的な事項等について検討するため、専門委員会を設置することができる。

専門委員会には、委員長及び副委員長を置くものとする。

なお、専門委員会は、甲又は乙の申し出により適宜開催するものとする。

### 6. 幹事会

協議会に、協議会及び専門委員会の事務を処理するため、幹事会を置くものとする。

幹事は、香川大学教育学部及び香川県教育委員会の関係職員をもって充てるものとする。

### 7. 補則

この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の承認を経て会長が定める。

### 附 則

この要項は、平成14年5月30日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年2月13日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

別 表

香川大学教育学部

教育学部長  
各副学部長  
教育研究評議員  
実地教育委員会委員長  
学生支援専門委員会委員長  
学務委員会委員長  
入試委員会委員長  
附属学校代表  
附属教職支援開発センター長  
事務課長

香川県教育委員会

教育長  
理事  
教育次長  
総務課長  
義務教育課長  
高校教育課長  
特別支援教育課長  
香川県教育センター所長